

御田台遺跡 (1337-4地点)  
宿遺跡 (1972-1地点)  
宿遺跡 (1974-5地点)  
宿遺跡 (1973-1地点)

—個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2 0 2 3

芝 山 町 教 育 委 員 会



御田台遺跡 (1337-4地点)  
宿遺跡 (1972-1地点)  
宿遺跡 (1974-5地点)  
宿遺跡 (1973-1地点)

—個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—



2023

芝山町教育委員会



## 例 言

1. 本書は、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して実施された「御田台遺跡（1337-4地点）」「宿遺跡（1972-1地点）」「宿遺跡（1974-5地点）」「宿遺跡（1973-1地点）」の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本書に所収される内容は、
  - ・千葉県山武郡芝山町小池1337番地4他に所在する、「御田台遺跡（1337-4地点）」
  - ・千葉県山武郡芝山町大里字宿1972番地1他に所在する、「宿遺跡（1972-1地点）」
  - ・千葉県山武郡芝山町大里字宿1974番地5他に所在する、「宿遺跡（1974-5地点）」
  - ・千葉県山武郡芝山町大里字宿1973番地1他に所在する、「宿遺跡（1973-1地点）」の発掘調査の成果である。  
なお、「御田台遺跡（1337-4地点）」は「御田台遺跡」、「宿遺跡（1972-1地点）」は「宿遺跡」として、それぞれ平成5年度に発掘調査を実施した。今回報告にあたり「御田台遺跡（1337-4地点）」「宿遺跡（1974-5地点）」「宿遺跡（1973-1地点）」と呼称し、地番を入れることによって、調査地点を明確にした。
3. 整理及び本報告書作成にあたって、組織は下記の通りである。  
《芝山町教育委員会》  
教育長：五木田 啓一  
教育課長：行川 水、社会教育・文化振興担当課長：奥住 淳、文化振興係長：山崎一矢、  
芝山古墳・はにわ博物館学芸員：伝田郁夫、会計年度任用職員：渡辺修司
4. 各遺跡の発掘調査の調査期間等は、本文中に記載した。整理作業及び報告書刊行は、渡辺が担当し、令和4年8月より実施した。
5. 出土遺物、図面等の記録類は、芝山町教育委員会で保管している。
6. 本書第1図に使用した地形図は、国土地理院発行の5万の1地形図「成田」の一部に加筆したものをを使用した。
7. 本書図版1に使用したものは京業測量株式会社による平成20年1月撮影のものである。
8. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関からご協力を賜った。ここに記して謝意を表します。  
千葉県教育庁教育振興部文化財課、西山太郎、

## 凡 例

1. 本書において遺構名をH=竪穴住居跡、D=土坑、M=溝のように略記している。
2. 本書で用いた遺構配置図は、公共座標（日本測地系）を基準として作成し、方位は全て座標北を示す。
3. 遺構挿入図中の水系レベルの数値は、標高値を示す。
4. 計測値の（ ）内は、推定値および現存する値を示す。
5. 土層断面図における攪乱の表示をKとした。

# 本文目次

## 例言

第1章 御田台遺跡 (1337-4地点) .....	1
1. 遺跡の位置 .....	1
2. 調査に至る経緯 .....	1
3. 検出された遺構と遺物 .....	3
a. 竪穴住居跡 .....	3
b. 土坑・溝 .....	6
第2章 宿遺跡の位置と環境 .....	8
第3章 宿遺跡 (1972-1地点) .....	10
1. 調査に至る経緯 .....	10
2. 検出された遺構と遺物 .....	10
第4章 宿遺跡 (1974-5地点) .....	11
1. 調査に至る経緯 .....	11
2. 検出された遺構と遺物 .....	11
第5章 宿遺跡 (1973-1地点) .....	12
1. 調査に至る経緯 .....	12
2. 検出された遺構と遺物 .....	12

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図 .....	
第2図 御田台遺跡 (1337-4地点) 周辺の地形 .....	1
第3図 御田台遺跡 (1337-4地点) 周辺の調査図 .....	2
第4図 御田台遺跡 (1337-4地点) 遺構配置図 .....	2
第5図 H-001遺構及び遺物実測図 .....	3
第6図 H-002遺構及び遺物実測図 (1) .....	4
第7図 H-002遺物実測図 (2) .....	5
第8図 H-003遺構及び遺物実測図・M-001断面図 .....	6
第9図 D-001・M-001遺構及び遺物実測図 .....	7
第10図 宿遺跡周辺の地形 .....	8
第11図 宿遺跡トレンチ配置図 .....	9
第12図 宿遺跡 (1972-1地点) 遺物実測図 .....	10
第13図 宿遺跡 (1974-5地点) 遺物実測図 .....	11
第14図 宿遺跡 (1973-1地点) 遺物実測図 .....	12

## 表 目 次

第1表	御田台遺跡周辺の遺跡一覧表	2
第2表	御田台遺跡 (1337-4地点) H-001出土遺物観察表	3
第3表	御田台遺跡 (1337-4地点) H-002出土遺物観察表	5
第4表	御田台遺跡 (1337-4地点) H-003出土遺物観察表	6
第5表	御田台遺跡 (1337-4地点) M-001出土遺物観察表	7
第6表	宿遺跡 (1972-1地点) 出土遺物観察表 (1)	10
第7表	宿遺跡 (1974-5地点) 出土遺物観察表	11
第8表	宿遺跡 (1973-1地点) 出土遺物観察表	12
第9表	宿遺跡 (1972-1地点) 出土遺物観察表 (2) (黒曜石)	図版5

## 図 版 目 次

### 図版 1

御田台遺跡周辺航空写真 (平成20年1月4日撮影)

### 図版 2

宿遺跡周辺航空写真 (平成20年1月4日撮影)

### 図版 3 御田台遺跡 (1337-4地点)

1. H-001完掘
2. H-002完掘
3. H-003完掘
4. D-001
5. 調査風景
6. 調査区全景

### 図版 4 御田台遺跡 (1337-4地点)

1. 出土遺物

### 図版 5 宿遺跡 (1972-1地点)

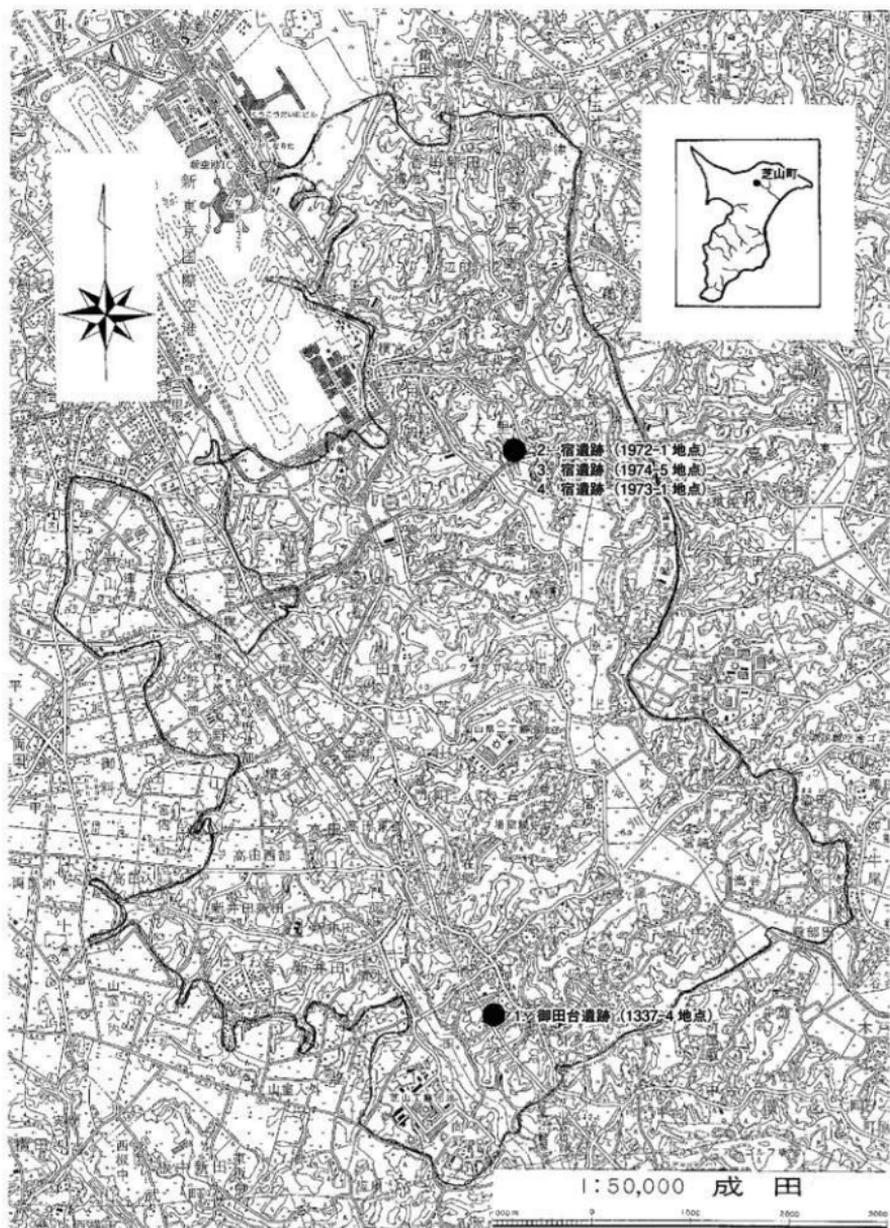
1. 第2トレンチ
2. 第3トレンチ
3. 第4トレンチ
4. 第5トレンチ
5. 出土遺物

### 図版 6 宿遺跡 (1974-5地点)

1. 調査前
2. 第1トレンチ
3. トレンチ全景
4. 調査風景
5. 出土遺物

### 図版 7 宿遺跡 (1973-1地点)

1. 第3トレンチ
2. 第1トレンチ
3. 第1・第2トレンチ
4. 第2トレンチ
5. 調査風景
6. 出土遺物



第1図 遺跡位置図

## 第1章 御田台遺跡 (1337-4地点)

### 1. 遺跡の位置

御田台遺跡 (1337-4地点) は、千葉県山武郡芝山町小池元高田字堂坂1337番地4他に所在する。この御田台遺跡は、太平洋に注ぐ木戸川と栗山川の支流に挟まれた松尾台に位置し、芝山町役場より南南西へ約200m、芝山鉄道「芝山千代田駅」より南へ約7km、成田国際空港「空港第2ビル」より南南東へ約9.5kmの距離にある。

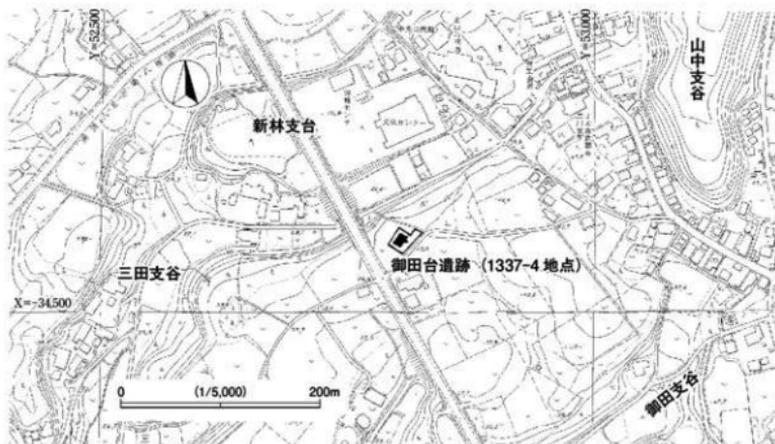
本遺跡は、木戸川左岸の御田支台にあたり、東側を高谷川谷と山中支谷、西側を木戸川谷、南北をそれぞれ北東—南西方向に走り木戸川谷に延びる御田支谷と三田支谷とに挟まれた、山中支谷のある北東方向から木戸川谷の南西に延びる舌状台地である。今回の調査地点は、三田支谷に面する標高40mを測る。

### 2. 調査に至る経緯

今回の調査は、千葉県山武郡芝山町小池元高田字堂坂1337番地4他に、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設を計画したことによる。平成5年8月4日に個人事業主から芝山町教育委員会に住宅予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて (照会)」が提出された。

千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会では、当該地は、「千葉県埋蔵文化財分布地図 (2)」と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「御田台遺跡」の範囲にあたりと判断し、遺跡有りの回答を平成5年8月30日付けで行った。

この回答をもとに遺跡の取り扱いについて、千葉県教育委員会・芝山町教育委員会・個人事業主と協議を行った結果、確認調査を行わずに現状保存の困難な母屋部分の140mについて、本調査を実施することになり、財団法人山武郡市文化財センターが個人事業主と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を締結した。調査は、調査課長 田村 隆、調査課長補佐 小林清隆の指導のもと、調査研究員 中野修秀が実施し、竪穴住居跡3軒、土坑1基、溝1条が検出された。発掘調査期間は、平成5年10月7日から同年10月25日である。



第2図 御田台遺跡 (1337-4地点) 周辺の地形

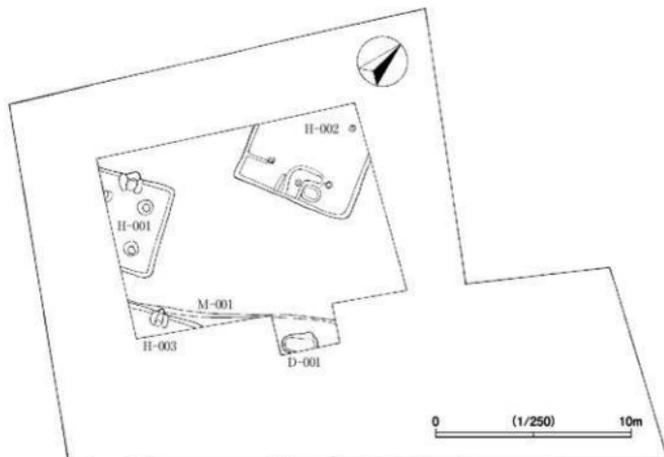
御田台遺跡 (1337-4地点)



第3図 御田台遺跡 (1337-4地点) 周辺の調査図

第1表 御田台遺跡周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	参考文献	時代
1	御田台遺跡 (1337-4地点)	芝山町小池1337-4地	本書所収	古墳
2	御田台遺跡 (1336-1地点)	芝山町小池元高田字堂坂1336-1	吉田 直哉 2000 「御田台遺跡(1336-1地点)」「芝山町内遺跡発掘調査報告書-平成11年度」 芝山町教育委員会 渡邊 高広 1992 「芝山町御田台遺跡」【主要地方道成田松尾線 芝山町御田台遺跡 小池新林遺跡】(財)千葉県文化財センター	縄文 弥生 古墳 平安 中・近世
3	芝山町御田台遺跡	芝山町小池元高田字辺田1385他		旧石器 古墳 奈良・平安
4	御田台遺跡	芝山町小池字荒道1438	新井 順二 1986 「御田台遺跡」【御田台遺跡発掘調査報告書】 芝山町御田台遺跡調査会	古墳 奈良



第4図 御田台遺跡 (1337-4地点) 遺構配置図

## 3. 検出された遺構と遺物

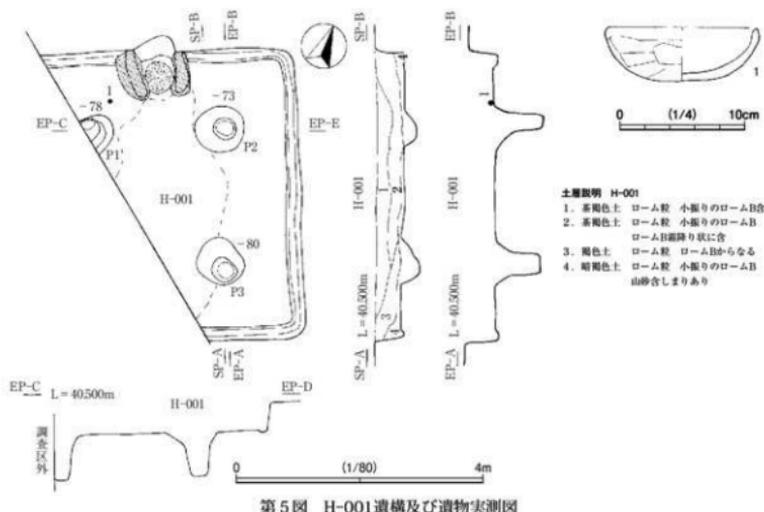
隣接した南西部を平成11年度「芝山町内遺跡発掘調査報告書「御田台遺跡(1337-1地点)」」として調査が実施されている。今回前述した通り140㎡の本調査を実施し、竪穴住居跡3軒、土坑(陥し穴)1基、溝1条を検出した。

## a. 竪穴住居跡

今回調査した当遺跡からは、3軒検出されている。これらの竪穴住居跡は、全て完掘されず区域外に伸びている。遺存状態は比較的良好であった。

## H-001 (第5図, 図版3)

主軸方向: N-40°-W。重複関係: 単独と想定。規模と平面形: 4.78m×(3.94)m 正方形又は長方形と想定。壁: 壁高38~48cmを測り、やや緩やかに外傾して立ち上がる。周溝: 一部が区域外に伸びているため、南西部が検出されていないが、壁下を全周していると考える。規模は上幅7~13cm、深さ5~6cm程を測り、断面形はU字状を呈している。柱穴: 3ヶ所(P1~P3)検出されている。P1径(42)×60cm、深さ77cm円形又は楕円形、P2径75×82cm、深さ73cm程の円形、P3径70×76cm、深さ81cm円形。床面: はほぼ平坦である。カマド: 遺存状態は良好で、北壁中央部の壁を25cm外へ掘り込んでいる。規模は長さ86cm、幅115cmを測る。火床部は長径59cm×短径46cmが検出された。ロームブロックを含む暗褐色土をベースに灰白色砂を含む構築土を用いて作る。遺物: 土師器環1点出土した。所見: 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀の住居跡と考える。

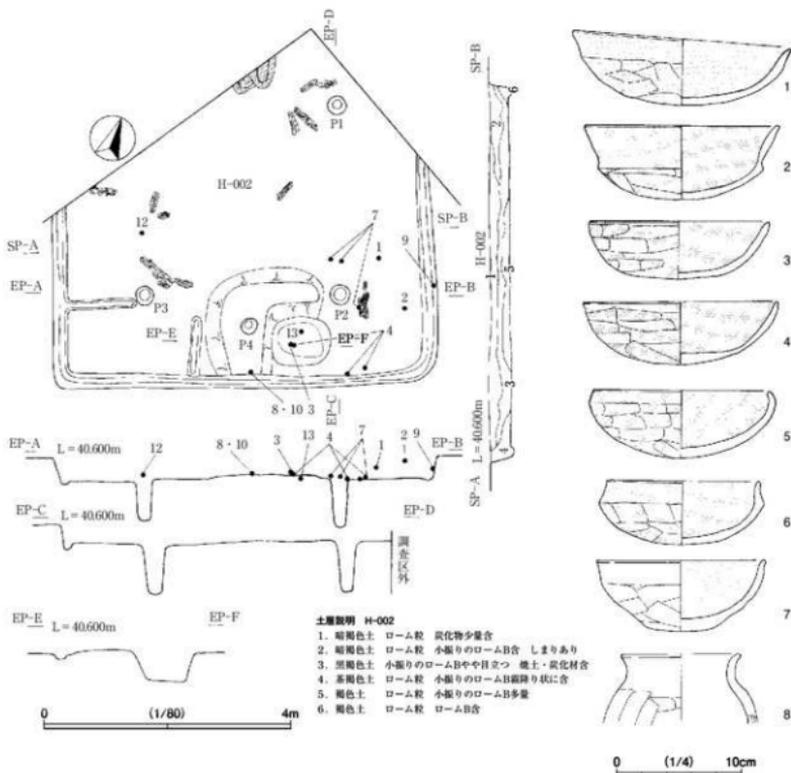


第2表 御田台遺跡 (1337-4地点) H-001出土遺物観察表

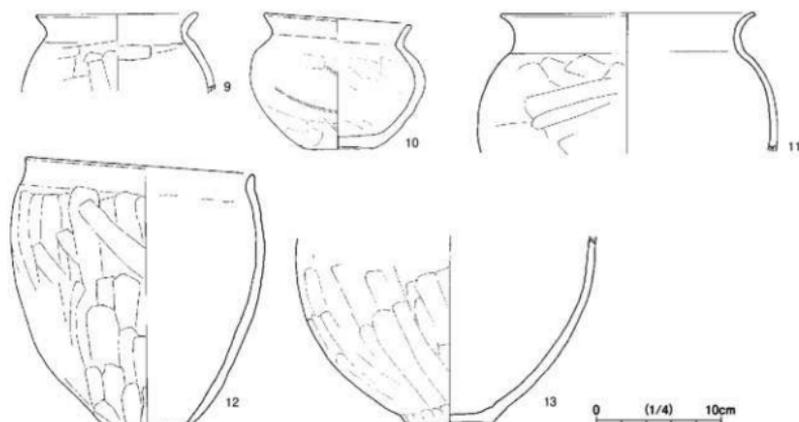
遺構 No.	挿入 No.	種類	器種	遺存度	計測値 (cm)			調整			胎土	色調	
					口径	器高	底径	外面	内面	底部		外面	内面
H-001	5-1	土師器	環	1.2遺存	12.0	4.4		へう割り	ナデ		石英	灰黄褐色	灰黄褐色

## H-002 (第6図, 図版3)

主軸方向: N-7°-W。重複関係: 単独と想定。規模と平面形: 6.10m×(5.82)m 正方形又は長方形と想定。壁: 壁高28~37cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。周溝: 一部が区域外に伸びているため、北西部が検出されていないが、壁下を全周していると考える。規模は上幅3~15cm、深さ3~8cm程を測り、断面形はU字状を呈している。柱穴: 4ヶ所(P1~P4) 検出されている。P1径26×30cm、深さ82cm円形、P2径28×32cm、深さ80cm楕円形、P3径27×32cm、深さ66cm程の楕円形、P4径25×27cm、深さ14cm円形。床面: ほぼ平坦である。貯蔵穴: 南壁より検出され長軸96cm×短軸82cm、深さ39~42cmの隅丸方形又は楕円形を呈する。間仕切り: 2ヶ所検出されている。①長軸113cm×短軸14cm、深さ7cm。②長軸102cm×短軸17cm、深さ3cm。周溝: 長径190cm×短径177cm、深さ2~4cm。カマド: 北側中央に設けられていると想定。北西部が区域外に伸びている為、全容は不明。右袖一部と火床部の一部が検出された。規模は長さ(56)cm、幅40cmを測る。火床部は長径(22)cm×短径(15)cmが検出された。遺物: 土師器坏7点(赤彩)、土師器甕5点、瓶1点出土した。所見: 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀の住居跡と考える。



第6図 H-002遺構及び遺物実測図(1)



第7図 H-002遺物実測図(2)

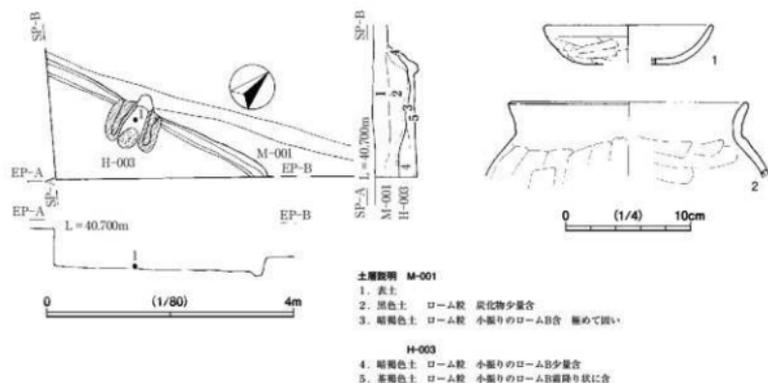
第3表 御田台遺跡(1337-4地点) H-002出土遺物観察表

遺構 No.	種別 No.	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			調整			胎土		色調	
					口径	器高	底径	外面	内面	底部	外面	内面		
H-002	6-1	土師器	罎	完形	17.8	5.3		ヘラ削り 口縁部赤採	ナデ 赤採	ヘラ削り	白色粒 黒色粒 石英	赤褐色	赤褐色	
H-002	6-2	土師器	罎	完形	15.8	6.0		ヘラ削り 口縁部 ~体部赤採	ナデ 体部赤採	ヘラ削り	スコリア 白色粒 黒色粒 石英	赤褐色	赤褐色	
H-002	6-3	土師器	罎	口縁部一部 欠損はは完存	14.7	4.7		ヘラ削り 口縁部 ~体上部赤採	ナデ 体部赤採	ヘラ削り	白色粒 黒色粒 石英	明黄褐色	橙褐色	
H-002	6-4	土師器	罎	3/4遺存	15.8	5.1		ヘラ削り 口縁部 ~体上部赤採	ナデ 赤採	ヘラ削り	白色粒 黒色粒 石英	明褐色	明褐色	
H-002	6-5	土師器	罎	1/2遺存	14.2	5.5		ヘラ削り 赤採	ナデ 体部赤採	ヘラ削り	白色粒 黒色粒 石英	赤褐色	赤褐色	
H-002	6-6	土師器	罎	3/4遺存	12.4	5.2		ヘラ削り 口縁部 ~体部赤採	ナデ 体部赤採	ヘラ削り	スコリア 黒色粒 石英	にぶい褐色	にぶい褐色	
H-002	6-7	土師器	罎	3/4遺存	13.8	5.9	5.5	ヘラ削り	ナデ 体部赤採	ヘラ削り	スコリア 黒色粒 石英	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
H-002	6-8	土師器	甕	口縁部~胴上部 1/4強遺存	(130)	(6.2)		ヘラ削り	ヘラナデ		白色粒 石英	明赤褐色	暗赤褐色	
H-002	7-9	土師器	甕	口縁部~胴上部 1/4遺存	(96)	(5.4)		ヘラ削り	ナデ		スコリア 白色粒 石英	暗赤褐色	黒褐色	
H-002	7-10	土師器	甕	口縁部1/6~ 胴中央部1/2 胴中央部~ 底部遺存	(120)	11.8	5.8	ヘラ削り 剥離著しい 底成不良	ヘラ削り 後ナデ	ヘラ削り	スコリア 白色粒 石英	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
H-002	7-11	土師器	甕	口縁部~胴上部 1/10遺存	(208)	(11.5)		ヘラ削り	ナデ		白色粒	赤黄褐色	赤黄褐色	
H-002	7-12	土師器	甕	3/4遺存	19.6	21.6	7.5	ヘラ削り	ナデ		スコリア 白色粒 石英	明赤褐色	明褐色	
H-002	7-13	土師器	甕	胴中央部~ 底部遺存	(15.5)	7.0		ヘラ削り	ヘラ削り 後ナデ		白色粒	暗赤褐色	赤褐色	

## H-003 (第8図, 図版3)

主軸方向: N-23°-W。重複関係: 本跡の上部にM-001が構築されている。規模と平面形: (4.20)m×(1.53)m 正方形又は長方形と想定。壁: 壁高29~44cmを測り、緩やかに外傾して立ち上がる。周溝: 南東部が検出されていないが、壁下を全周していると考え。規模は上幅8~15cm、深さ3~5cmを測り、断面形は台形又はU字形を呈する。柱穴: 大半が調査区域外の為未掌握。床面: ほほ平坦である。カマド: 北西壁中央に設けられていると想定。壁を25cm外へ掘り込んでいる。規模は長さ80cm、幅85cmを測る。火床部は長さ35cm×短径23cmが検出された。遺物: 土師器罎1点、土師器甕1点出土した。所見: 本跡は、重複関係からM-001より古い時期に構築。遺構の形態及び出土遺物から6世紀の住居跡と考える。

御田台遺跡 (1337-4地点)



第8図 H-003遺構及び遺物実測図・M-001断面図

第4表 御田台遺跡 (1337-4地点) H-003出土遺物観察表

遺構 No.	挿図 No.	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			調整			胎土	色調	
					口径	器高	底径	外面	内面	底部		外面	内面
H-003	8-1	土師器	環	1/4遺存	(13.8)	(3.2)		ヘラ削り	ナデ		白色粒	赤褐色	赤褐色
H-003	8-2	土師器	甕	口縁部 1/10遺存	(19.4)	(6.6)		ヘラ削り	ヘラ削り		白色粒	明褐色	黄褐色

b. 土坑・溝

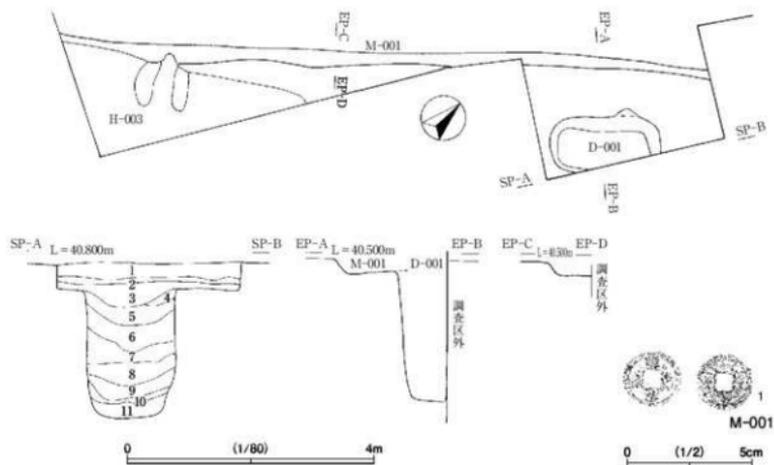
調査区南東部から、土坑(陥し穴)1基及び溝1条が検出された。一部地区外に伸びていて完掘されなかった。

D-001 (第9図, 図版3)

重複関係: M-001に切られている。規模と平面形: 長径177cm, 短径(92)cmの隅丸長方形を呈し深さ210cm。長軸方向: N-33°-W。壁: ほほ垂直に立ち上がる。床面: 楕円形を呈し平坦。遺物: 出土しなかった。所見: 重複関係からM-001より古い時期に構築され、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と考える。

M-001 (第9図)

重複関係: 本跡はH-003・D-001の上部に構築されている。規模と形状: 全長は約(7.50)m。上幅下幅は不明、深さ24~26cm。遺物: 古銭1点出土した。所見: 重複関係からH-003・D-001より新しい時期に構築された溝と考える。性格は不明である。



## 土層説明 D-001

- |          |         |      |      |
|----------|---------|------|------|
| 1. 表土    | 7. 暗褐色土 | ローム粒 | ローム粒 |
| 2. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 3. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 4. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 5. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 6. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 7. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 8. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 9. 暗褐色土  | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 10. 暗褐色土 | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |
| 11. 暗褐色土 | ローム粒    | ローム粒 | ローム粒 |

第9図 D-001・M-001遺構及び遺物実測図

第5表 御台遺跡 (1337-4地点) M-001出土遺物観察表

遺構 No.	挿図 No.	名称	法量 (cm)			重量 (g)	文字面厚 (cm)
			外径外縁	内径内縁	外縁厚		
M-001	9-1	古銭	2.40	0.71	0.13	220	0.09

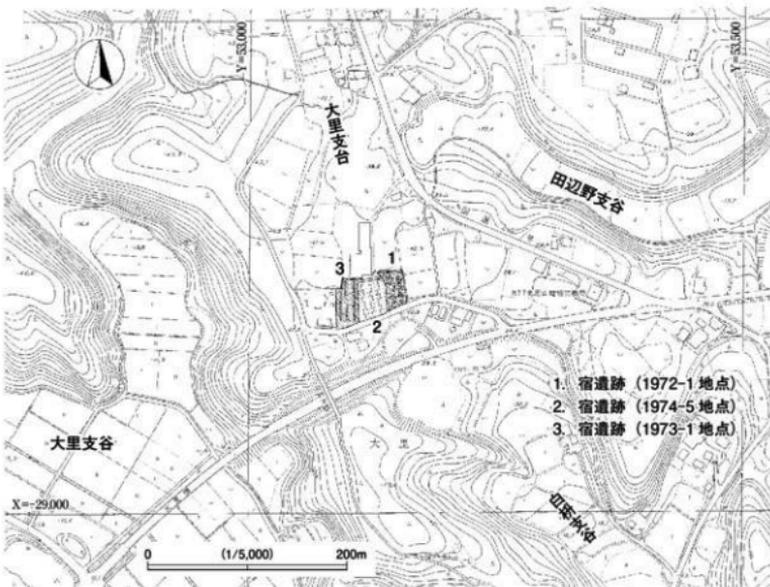
## 第2章 宿遺跡の位置と環境

宿遺跡は、千葉県山武郡大里字宿地先で太平洋に注ぐ栗山川の支流高谷川の最上流域に位置し、芝山町役場より北約5.4km、芝山鉄道「芝山千代田駅」より南東約2kmの距離にあり、成田国際空港の南東側に近接している。

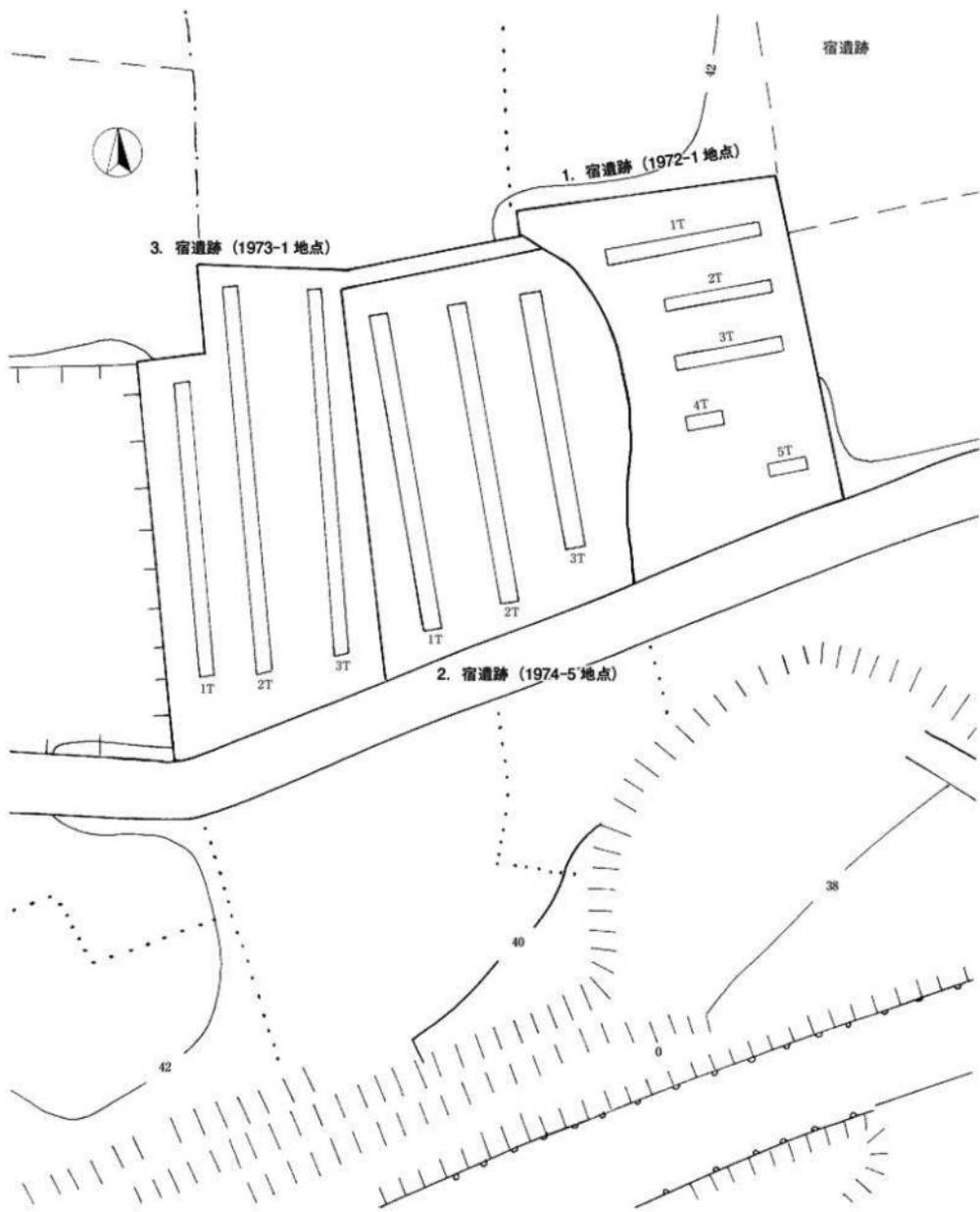
大里地域は、南側付近を国道296号線が東西に通じ、北西から南東へ通る県道106号線八日市場佐倉線は、国道296号線の旧道にあたり、東部で本線の国道へと合流する。また、南西側は高谷川を挟んで県道290号線大里小池線が通っていて、北部で県道106号線へと合流する。

今回報告の宿遺跡3地点は、西側を大里支谷、北から北東側を田辺野支谷、南側を白樺支谷に挟まれた大里支台の標高43m前後に占地している。近接地には大里田辺台古墳群やニヶ谷遺跡など古墳時代後期の遺跡や奈良・平安時代の中瀬越遺跡が分布している。

「千葉県埋蔵文化財分布地図（2）」によれば、芝山町に173の遺跡・古墳群が確認されている。本遺跡周辺においては昭和50年代から隣接する成田市や多古町を含めて、空港中心に大規模な発掘調査が実施されている。



第10図 宿遺跡周辺の地形



第11図 宿遺跡トレンチ配置図

## 第3章 宿遺跡 (1972-1地点)

### 1. 調査に至る経緯

今回の調査は、千葉県山武郡芝山町大里字宿1972番1地に、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設を計画したところによる。平成5年10月21日に個人事業主から芝山町教育委員会に住宅用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」が提出された。

千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会では、当該地は「千葉県埋蔵文化財分布地図（2）」と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「宿遺跡」が所在することを確認し、遺跡有りの回答を平成5年11月16日付けで行った。

この回答をもとに、遺跡の取り扱いについて、千葉県教育委員会・芝山町教育委員会・個人事業主とで協議を行った結果、遺跡の性格及びその広がりを掌握する目的で確認調査を実施し、今後の検討資料とすることとした。

発掘調査は、千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会の指導のもと、財団法人山武郡市文化財センターが受託事業として実施することになり、個人事業主と埋蔵文化財発掘調査に関する業務（確認調査）の委託契約を締結した。

確認調査は、調査課長田村 隆、調査課長補佐小林清隆の指導のもと、調査研究員海保孝則が実施した。面積は701㎡を対象として70㎡を平成6年1月24日から同年1月25日に行った。

### 2. 検出された遺構と遺物

本遺跡は、銚子の埴輪が出土した白斜遺跡の南に隣接する遺跡である。今回調査された当遺跡からは、遺構は検出されなかった（第11図）。遺物は、計測可能な埴輪片1点、縄文土器3点、黒曜石3点が出土した。うち、黒曜石3点は図版5に掲載した。今回の調査区は、宿遺跡の範疇であるが、遺構の空白区であることが伺われる。



第12図 宿遺跡（1972-1地点）遺物実測図

第6表 宿遺跡（1972-1地点）出土遺物観察表（1）

遺構	挿図	種類	器種	遺存度	胎土	色調		形式
						外面	内面	
第1トレンチ	12-1	円筒埴輪	埴輪	胴部片	白色 黒色 石英	明赤褐色	明赤褐色	
第1トレンチ	12-2	縄文土器	深鉢	胴部片	白色 雲母	暗褐色	褐色	阿玉台

## 第4章 宿遺跡 (1974-5地点)

### 1. 調査に至る経緯

今回の調査は、千葉県山武郡芝山町大里字宿1974番5地に、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設を計画したところによる。平成10年7月13日に芝山町教育委員会に住宅用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて(照会)」が提出された。

千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会では、当該地は「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)」と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「宿遺跡」が所在することを確認し、遺跡有りの回答を平成10年4月9日付けで行った。

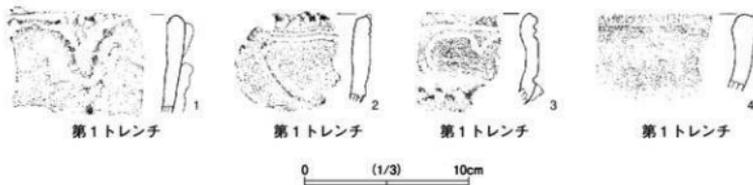
この回答をもとに、遺跡の取り扱いについて、千葉県教育委員会・芝山町教育委員会及び移転対象者(個人事業主)とで協議を行った結果、遺跡の性格及びその広がりを掌握する目的で確認調査を実施し、今後の検討資料とすることとした。

発掘調査は、千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会の指導のもと、財団法人山武郡市文化財センターが受託事業として実施することになり、芝山町と埋蔵文化財発掘調査に関する業務(確認調査)の委託契約を締結した。

確認調査は、調査課長大野康男、調査係長波辺修司の指導のもと、調査研究員山口直人が実施した。面積は914㎡を対象として91㎡を平成10年6月23日から同年6月24日に行った。

### 2. 検出された遺構と遺物

本遺跡は、銚子の埴輪が出土した白髷遺跡の南に隣接する遺跡である。今回調査された当遺跡からは、遺構は検出されなかった(第11図)。遺物は、計測可能な縄文土器4点及び細片であるが土師器数点出土した。今回の調査区は、宿遺跡の範疇であるが、遺構の空白区であることが伺われる。



第13図 宿遺跡(1974-5地点)遺物実測図

第7表 宿遺跡(1974-5地点)出土遺物観察表

遺構	棟号	種類	器種	遺存度	胎土	色調		形式
						外面	内面	
第1トレンチ	13-1	縄文土器	深鉢	口縁片	白色 黒色 石英	橙褐色	橙褐色	阿玉台
第1トレンチ	13-2	縄文土器	深鉢	口縁片	白色 黒色 雲母少	明黄褐色	明黄褐色	阿玉台
第1トレンチ	13-3	縄文土器	深鉢	口縁片	白色 雲母	明褐色	にぶい黄褐色	阿玉台
第1トレンチ	13-4	縄文土器	深鉢	口縁片	白色 石英	明赤褐色	褐色	阿玉台

## 第5章 宿遺跡 (1973-1地点)

### 1. 調査に至る経緯

今回の調査は、千葉県山武郡芝山町大里字宿1973番1地に、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設を計画したところによる。平成10年7月13日に芝山町教育委員会に住宅用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて(照会)」が提出された。

千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会では、当該地は「千葉県埋蔵文化財分布地図(2)」と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「宿遺跡」が所在することを確認し、遺跡有りの回答を平成10年8月7日付けで行った。

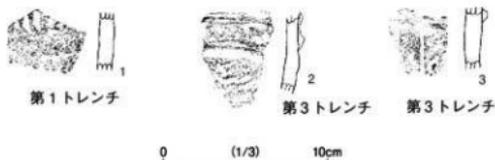
この回答をもとに、遺跡の取り扱いについて、千葉県教育委員会・芝山町教育委員会及び移転対象者(個人事業主)とて協議を行った結果、遺跡の性格及びその広がりを掌握する目的で確認調査を実施し、今後の検討資料とすることとした。

発掘調査は、千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会の指導のもと、財団法人山武郡市文化財センターが受託事業として実施することになり、芝山町と埋蔵文化財発掘調査に関する業務(確認調査)の委託契約を締結した。

確認調査は、調査課長大野康男、調査係長波辺修司の指導のもと、調査研究員海保孝則が実施した。面積は488㎡を対象として49㎡を平成10年9月22日から同年9月30日に行った。

### 2. 検出された遺構と遺物

本遺跡は、銚子の埴輪が出土した白斜遺跡の南に隣接する遺跡である。今回調査された当遺跡からは、遺構は検出されなかった(第11図)。遺物は、計測可能な縄文土器3点及び細片であるが土師器数点出土した。今回の調査区は、宿遺跡の範疇であるが、遺構の空白区であることが伺われる。



第14図 宿遺跡(1973-1地点)遺物実測図

第8表 宿遺跡(1973-1地点)出土遺物観察表

遺構	採因	種類	器種	遺存度	胎土	色調		形式
						外面	内面	
第1トレンチ	14-1	縄文土器	深鉢	胴部片	白色 雲母	黒褐色	にぶい黄褐色	阿玉台
第3トレンチ	14-2	縄文土器	深鉢	胴部片	白色 黒色 雲母少	にぶい黄褐色	明黄褐色	加曾利E
第3トレンチ	14-3	縄文土器	深鉢	胴部片	白色 石英	黒褐色	にぶい橙褐色	加曾利E

# 報告書抄録

ふりがな	みただいいせき (1337-4ちてん) しゆくいせき (1972-1ちてん) しゆくいせき (1974-5ちてん) しゆくいせき (1973-1ちてん)
書名	御田台遺跡 (1337-4地点) 宿遺跡 (1972-1地点) 宿遺跡 (1974-5地点) 宿遺跡 (1973-1地点)
副書名	住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	芝山町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編集者	渡辺修司
編集機関	芝山町教育委員会
所在地	〒289-1624 千葉県山武郡芝山町小池973 Tm0479-77-1861
発行機関	芝山町教育委員会
所在地	〒289-1624 千葉県山武郡芝山町小池973 Tm0479-77-1861
発行年月日	西暦2023年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みただいいせき 御田台遺跡 (1337-4地点)	千葉県山武郡芝山町小池 1337-4他	12409	山文 セ-59	35° 41' 17"	140° 25' 01"	1993.10.7～ 1993.10.25	本調査 上層140	航空機騒音移 転に伴う個人 住宅建設
しゆくいせき 宿遺跡 (1972-1地点)	千葉県山武郡芝山町 大里字宿1972-1他	12409	山文 セ-63	35° 44' 20"	140° 25' 15"	1994.1.24～ 1994.1.25	確認調査 70/701	航空機騒音移 転に伴う個人 住宅建設
しゆくいせき 宿遺跡 (1974-5地点)	千葉県山武郡芝山町 大里字宿1974-5他	12409	山文 セ-147	35° 44' 20"	140° 25' 14"	1998.6.23～ 1988.6.24	確認調査 91/914	航空機騒音移 転に伴う個人 住宅建設
しゆくいせき 宿遺跡 (1973-1地点)	千葉県山武郡芝山町 大里字宿1973-1他	12409	山文 セ-154	35° 44' 20"	140° 25' 13"	1998.9.22～ 1998.9.30	確認調査 49/488	航空機騒音移 転に伴う個人 住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
みたがいのせき 御田台遺跡 (1337-4地点)	集落跡	古墳時代後期 中世	竪穴住居 3軒 土坑 1基 溝 1条	土師器 (坏 甕) 古銭	古墳時代後期の集落跡が 検出された。
要約	航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して (財) 山武郡市文化財センターが平成 5年度に本調査を実施した御田台遺跡 (1337-4地点) の発掘調査報告書である。小範 囲の調査であったが、他の調査地点と同様に竪穴住居が検出され、遺構密度の高さが 推察される。				
しほくいせき 宿遺跡 (1972-1地点)	包蔵地	縄文土器 古墳時代		縄文土器 黒曜石剥片 埴輪片	埴輪片及び縄文土器 (阿 玉台) が出土した。
要約	航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して (財) 山武郡市文化財センターが平成 10年度に確認調査を実施した宿遺跡 (1972-1地点) の発掘調査報告書である。地形に 沿ってトレンチを設定し、確認調査を実施した。その結果遺構は検出されず埴輪片 1点、 縄文土器 1点及び黒曜石剥片 3点が出土した。今回の調査範囲は遺構の空白地である と言えよう。				
しほくいせき 宿遺跡 (1974-5地点)	包蔵地	縄文時代		縄文土器	縄文土器 (阿玉台) が出 土した。
要約	航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して (財) 山武郡市文化財センターが平成 10年度に確認調査を実施した宿遺跡 (1974-5地点) の発掘調査報告書である。地形に 沿ってトレンチを設定し、確認調査を実施した。その結果遺構は検出されず縄文土器 4点が出土した。今回の調査範囲は遺構の空白地であると言えよう。				
しほくいせき 宿遺跡 (1973-1地点)	包蔵地	縄文時代		縄文土器	縄文土器 (阿玉台、加曾 利 E) が出土した。
要約	航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して (財) 山武郡市文化財センターが平成 10年度に確認調査を実施した宿遺跡 (1973-1地点) の発掘調査報告書である。地形に 沿ってトレンチを設定し、確認調査を実施した。その結果遺構は検出されず縄文土器 3点が出土した。今回の調査範囲は遺構の空白地であると言えよう。				

# 写 真 图 版



御田台遺跡

1. 御田台遺跡 (1337-4地点)



宿遺跡周辺航空写真 (平成20年1月4日撮影)



1. H-001完掘



2. H-002完掘



3. H-003完掘



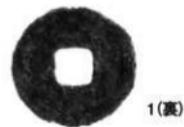
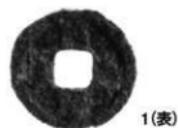
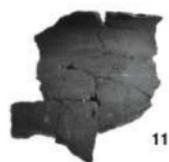
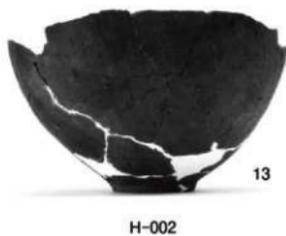
4. D-001



5. 調査風景



6. 調査区全景



M-001



1. 第2トレンチ



2. 第3トレンチ



3. 第4トレンチ



4. 第5トレンチ



5. 出土遺物

第9表 宿遺跡(1972-1地点)出土遺物観察表(2)(黒曜石)

	種類	計測値(cm)			重量(g)	出土地点
		最大長	最大幅	最大厚		
1	黒曜石	222	144	0.93	25	第1トレンチ
2	黒曜石	278	182	1.02	4.9	第2トレンチ
3	黒曜石	124	138	0.59	0.8	第6トレンチ



1. 調査前



2. 第1トレンチ



3. トレンチ全景



4. 調査風景



5. 出土遺物



1. 第3トレンチ



2. 第1トレンチ



3. 第1・第2トレンチ



4. 第2トレンチ



5. 調査風景



6. 出土遺物

芝山町埋蔵文化財調査報告書 第14集

千葉県山武郡芝山町

御田台遺跡(1337-4地点)

宿遺跡(1972-1地点)

宿遺跡(1974-5地点)

宿遺跡(1973-1地点)

- 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 -

---

印 刷	令和5年3月17日
発 行	令和5年3月24日
発 行	芝山町教育委員会
編 集	芝山町教育委員会 千葉県山武郡芝山町小池973 TEL 0479-77-1861
印 刷	株式会社 弘 文 社
製 本	千葉県市川市市川南2-7-2 TEL 047-324-5977

---





